

「梅ちゃん味好い饅頭を上げるから、叔父様の方へ入らつしやい」と、謂はれますと、梅ちゃんは、可愛い小さな兩手を廣ろけ顔中一杯笑みを散らして直ぐ、抱かれました、すると先生は「梅ちゃん叔父様がね今梅ちゃんの御腹を撫で押すとすぐ菓子や羊羹が出て來ますよ」と謂はれて、右手に菓子を持ち左手にて梅子の腹を押し「そーら御覧」と何度もく右手の菓子を見せますとさあ梅ちゃん膝の上で大喜びで終に先生が大好になつて一寸も離れませんか御母さんや妾が手に々々菓子や玩弄物を持つて見せてさま〜にすかして見ても一切聞き入れません、詮方なく其の夜はとう〜先生を御頼みして梅ちゃんを寐させて頂く事にしました。

## 毬歌と子守歌

備後の毬歌

佐藤生

一出て廻れ、私石割な。石割ならこそ、石割ます

る

二出て廻れ、庭掃な。丁稚ならこそ、庭掃ます

三出て廻れ、私しやみひかな。藝者ならこそ、し

やみひます

四出て廻れ、私しわよらな、年寄ならこそ、しわ

よります

五出て廻れ、私碁はうたな。ごうちならこそを

うちます

六出て廻れ、私槽はおせな、せんどならこそを

おします

七出て廻れ、私質おかな。貧乏ならこそ質おさま

する

八出て廻れ、私わたしはちやわらな。めくならこそはち

わりまする

九出て廻れ、私わたしくわうたな。百姓しやうせうならこそくわう

ちまする

十出て廻れ、私わたし字じはか、な。先生せんせいならこそ字じをか

さまする

同上子守歌

一ツトヤーヒトノカガミトナルヤウニナルヤウニ

ガクモンハグミテオコタルナオコタルナ

二ツトヤーフミヨムコトラシラザレバシラザレバ

マナコアレドモコウハナシコウハナシ

三ツトヤーミメハヒトナミスグレテモスグレテモ

マナバニヤミノナキヤヘザクラヤヘザクラ

四ツトヤーヨルヒルタヘセヌタニノミヅタニノミ

ヅツイニハハテナキウミトナル

五ツトヤーイマハムカシトホシウツリホシウツリ

ヒトノコウカモチヘシダイチヘシダイ

六ツトヤームヅカシトテマナバズバマナバズバイ

カナルコトヲモナシガタシナシガタシ

七ツトヤーナンギハワガミヲタマニスルタマニス

ルトイシトオモウテツトムベシツトムベシ

八ツトヤーヤマナカソダテノシヅノメモシツノメモ

モマナビシダイニキレウアリキレウアリ

九ツトヤーコロニヲチエヌコトガラハセシギニ

セニギヲカサヌベシ

十ツトヤートキヲヲシミテオコタルナオコタルナフ

タタビカヘラヌヒカリナシヒカリナシ

肥後の手毬歌 (座り打ち)

合志 章子

一ツ一ツでは乳ちちを呑のみ初はじめ二ツ二ツでは乳ちちをはなれて